

国分瓦窯跡

国分瓦窯跡は筑前国分寺などの瓦を焼いたとされる窯です。筑前国分寺跡から東北東の方角約200mに位置し、複数の窯から構成されています。窯跡は植物を混ぜた日干しの煉瓦を積み上げて造られた珍しい構造で、同じような構造をもつものに奈良県の日高山瓦窯跡や京都府の乾谷瓦窯跡があります。これらは藤原京や平城京といった施設に供給する瓦を焼いた窯です。国分瓦窯も重要な施設に瓦を供給するために、都からの技術を直接導入して造られた窯であると考えられています。

窯の操業時期については見つかった瓦より奈良時代の初め頃から平安時代にかけてと考えられ、これらは筑前国分寺や大宰府政庁、観世音寺周辺の建物に供給されていたと考えられています。

現在はため池の浸食による崩壊を防ぐため、窯跡は埋め戻して地下に保存しています。

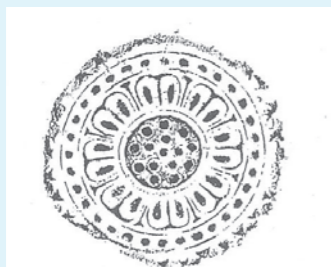
国分瓦窯跡は、窯の構造や主要な施設を支える役割から、筑前国分寺とともに重要な遺跡であることから国の史跡に指定されています。



国史跡指定を記念した石碑



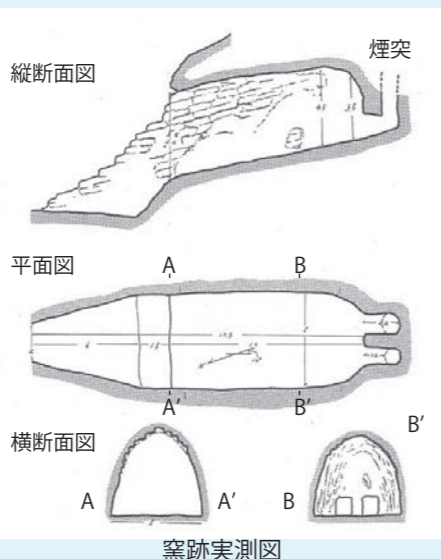
瓦窯の開口部分(昭和43(1968)年撮影)
アーチ状に積まれた煉瓦



窯内出土とされる軒丸瓦の拓本



日干し煉瓦で造る窯は、九州ではとても珍しかったんだよ。



(※瓦窯は地下に保存されているため見学はできません。

また、柵を越えてため池に立ち入る行為は非常に危険ですのでご注意ください。)

アクセス

筑前国分寺跡まで

- ・太宰府市コミュニティバス「まほろば号」
- 西鉄都府楼前駅発「筑前国分寺」下車。徒歩1分。

国分瓦窯跡まで

- ・太宰府市コミュニティバス「まほろば号」
- 西鉄都府楼前駅発「文化ふれあい館」下車。徒歩4分。



国指定史跡 筑前国分寺跡

指定日 大正11年(1922年)10月12日
所在地 福岡県太宰府市国分3丁目・4丁目
指定面積 24,642.84㎡ (2022年3月現在)
管理者 太宰府市



国指定史跡 国分瓦窯跡

指定日 大正11年(1922年)10月12日
所在地 福岡県太宰府市大字国分
指定面積 1,835.0㎡ (2022年3月現在)
管理者 太宰府市



備考 筑前国分寺跡、国分瓦窯跡は、「日本遺産」の構成文化財の一つです



日本遺産
古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～
<http://www.dazaifu-japan-heritage.jp>



発行：太宰府市教育委員会(文化財課)

〒818-0198 福岡県太宰府市観世音寺1-1-1

tel 092-921-2121 (代表) bunkazai@city.dazaifu.lg.jp

発行日：令和4年(2022年)7月29日

太宰府市の史跡シリーズ(筑前国分寺跡、国分瓦窯跡)



国指定史跡

ちくぜんこくぶんじあと

筑前国分寺跡

国指定史跡

こくぶんかわらがまあと

国分瓦窯跡

ちくぜんこくぶんじ
筑前国分寺



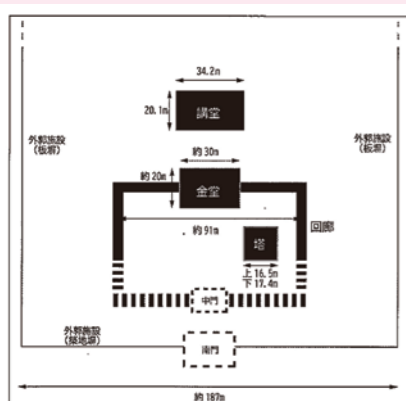
南上空から見た筑前国分寺

国分寺は、正式名称を「金光明四天王護国之寺」と言い、天平13年(741)に聖武天皇が出された「国分寺建立の詔」によって全国に国分寺が造られました。筑前国分寺はそのうちの一つで、水城を抜けて大宰府につながる官道から良く見える四王寺山の麓に建てられました。

これまで九州大学、福岡県教育委員会、太宰府市教育委員会によって、塔跡・講堂跡・金堂跡・回廊跡・外郭施設が調査され、各施設の配置(伽藍配置)や、寺域は築地塀や板塀で囲われていたことがわかってきました。また、各施設は複数の改修を経て存続するも、11世紀後半頃には姿を失っていたようです。

筑前国分寺跡は、日本の歴史を語るうえで重要な遺跡であることから、国の史跡に指定されています。

がらんはいち
伽藍配置



伽藍配置復元図

中央には金堂、その北側には講堂があり、南東側には七重塔が配置されています。南には中門があり、七重塔を囲うように金堂と回廊でつながります。さらに南には南門があると考えられ、外郭は築地塀や板塀で囲われていました。

ちくぜんこくぶんじ たてもの
筑前国分寺の建物



文化ふれあい館に復元された七重塔 (復元模型 S=1/10)



基壇の発掘調査*



現在、筑前国分寺跡には龍頭光山筑前国分密寺が建っており、境内には金堂跡の調査で見つかった礎石が見学できます。



僧が経典を読んだり、法要を行う場所です。現在は瓦積みの基壇を復元しています。



回廊(跡)は屋根がついた廊下で門や建物に繋がります。現在は回廊の位置を表示復元しています。



聖武天皇は仏教の力で国を平和にしたいという思いを込めて「国分寺建立の詔」を出されたのです。

かわら ぶつそう
瓦と仏像



創建当初の軒丸・軒平瓦*



木造仏像(伝薬師如来坐像)

現在の国分寺(龍頭光山筑前国分密寺)には平安時代後期の「伝薬師如来座像」が本尊として安置されており、国指定有形文化財に指定されています。



出土した土製仏像*

ちくぜんこくぶんじ
筑前国分尼寺

国分尼寺は正式名称を「法華滅罪之寺」と言います。「国分寺建立の詔」によって国分寺とともに建立された尼寺です。

筑前国分尼寺はその寺域については不明な点が多く、江戸時代に書かれた『筑前国続風土記』や『太宰府旧蹟全図』に礎石が残っていたことや、「アマ寺ノアト」の記述が見える程度でした。現在では、発掘調査の成果から南門、溝や柵といった外郭施設を確認しており、筑前国分寺から西におよそ100m離れた辺りに尼寺があったことがわかってきました。



尼寺の礎石



「花寺」と書かれた墨書土器

『筑前国続風土記』には礎石が20ほど残っていたことが記されています。その大半は失われ、現在は国分共同利用施設前に移設されています。

尼寺に関する資料として、尼寺跡の近くから、法華滅罪之寺を略した「花寺」と書かれた墨書土器が出土しています。

*…九州歴史資料館より写真提供。